

六
南
鮮
方
面
部
隊

-249-

0610

第七十一兵站病院（乘第一三六五部隊）

年	月	日	略	歴
昭和	一六	七	三〇	軍令により第七十一兵站病院編成下令
		八	三	編成完結（仙台）
		八	一六	仙台出發
		八	二一	大連上陸
		八	二四	關東州界通過
		八	二四	奉天着同日より同地に駐屯
		八	二四	四平省開原に駐屯
		八	二七	奉天省鉄嶺陸軍病院に於て戦傷病者の診療に従事
		八	二八	關東州界通過
		八	二八	關東金州陸軍病院に在りて戦傷病者の診療に従事
		八	二八	柳樹屯陸軍病院に在りて戦傷病者の診療に従事
		八	二八	柳樹屯出發同日關東州境通過
		八	二八	鮮満国境通過
		八	二八	朝鮮京城到着

				至自	昭和二〇
				二〇〇〇	七
				九〇九	一五
				三〇二	五
				一〇九	一
				一〇九	一
				復員完結	
				先崎港上陸	
				内地帰還のため釜山港出帆	
				釜山に在りて病院開設傷病者の診療に従事	
				終戦	
				停戦	
				忠清南道論山着、同地に在りて病院開設	

第三七野戦勤務隊 (築第一二七七〇部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 三 二〇	第三十七野戦勤務隊(陸上勤務第一七三、第一七四中隊)編成完結、基幹人員のみを充足した(平安北道平壤)
二〇 四 下旬	釜山地区に到着 爾後馬山、釜山(慶尚南道)、浦項(慶尚北道)に於ける揚塔作業並に舟艇退避所の構築作業に任ず。
二〇 五 五	補充人員(全員朝鮮人)を現地に於て受領
二〇 八 一五	停 戦
二〇 九 四	現地(釜山)に於て復員完結

第一二〇師団司令部 (邁進第一三九五部隊)

年 月 日

略 歴

昭和一九二二二〇

軍令により第一二〇師団司令部編成完結
(満洲国東寧県城子溝)

二〇五二

爾後東寧県地区警備

朝鮮に移動のため東寧県出発

五月中旬

大邱着司令部は慶山地区に位置し隷下部隊は左の区域の警備に任ず

釜山(含蔚山) 歩二五九連隊

固城、三千浦 歩二六一連隊

大邱、(浦項を含む) 歩二六〇連隊

慶山地区、砲兵隊、工兵隊

同 通信隊、輜重隊

二〇八、一五

停戦

九二

終戦

終戦後師団主力は京城地区に集結し同地の警備、一ヶ連隊(歩二六一連隊)は平壤

昭和二〇

九 二

地区の警備を担当す

九 八

師団は九月八日以降大田地区に移動待機

二 〇

内地復員のため十月中旬より帰還開始

一 〇

佐世保港上陸

一 〇 二五

復員完結

建築勤務第四十一中隊 (築第三〇二七部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一八 八 一一	建築勤務第四十一中隊編成完結(甲府 第六三部隊)
一八 八	甲府出發、滿洲牡丹江に駐屯し在滿航空部隊の兵舎、格納庫等の設営に任ず
二〇 六 二	関東軍司令官の隷下を脱し第十七方面軍司令官の隷下に入る
六 上旬	朝鮮京城に移駐す
七 七	済州島に移駐のため全羅南道麗水到着
七 九	輸送船先島丸に乗船
七 一〇	済州島北東二十哩の海上に於て米潜水艦の魚雷攻撃を受け瞬時にして沈没し総員戦死す。生還者三名は海上漂流後空腹と寒気のため意識不明中米潜水艦に救助され、サイパン島に送られ二十一年十月二十二日浦賀港上陸帰還す。

年 月 日	略 歴
昭和一九二〇	軍令により第一二〇師団通信隊編成完結（東寧県城子溝） 爾後東寧県地区の警備
二〇五二	朝鮮に移動のため東寧県出発
五月中旬	大邱着、慶山地区に在りて通信作業並に警備に任ず
二〇八五	停戦
九二	終戦
九八	大田地区に移駐
一〇八	内地帰還のため太田出発
一〇二四	釜山港出帆
一〇二四	佐世保港上陸
一〇二五	復員完結

独歩歩兵第七六四大隊 (壮凶第二九一一六部隊)

昭和	自	至	年月日	略歴
二〇	二〇	二〇	七七一	独立歩兵第七六四大隊編成完結(朝鮮)
二〇	二〇	二〇	七二九	馬山に在りて教育訓練を実施す
二〇	二〇	二〇	七三〇	固城に移動し海岸防備のため同地附近の築城作業に従事
二〇	二〇	二〇	八一五	停戦
二〇	二〇	二〇	九二	終戦
二〇	二〇	二〇	九二九	爾後終戦処理業務に従事
二〇	二〇	二〇	一〇一	内地帰還のため固城出発
二〇	二〇	二〇	一〇三	釜山港出帆
二〇	二〇	二〇	一〇三	仙崎港上陸
二〇	二〇	二〇	同日	復員完結

年 月 日	略 歴
昭和二〇 六 三〇	独立混成第一二七旅団砲兵隊 編成完結（京城）
七 一五	京城出發
七 二五	釜山着
七 二六	爾後同地附近の警備
八 一五	停戦
九 二二	終戦
一〇 二二	内地掃蕩のため釜山港出帆
一〇 三三	山口県仙崎港上陸
〃	復員完結

独立混成第一二七旅団砲兵隊（壮凶第二九一一七部隊）

釜山兵站部 (朝鮮軍)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 二 三 六	軍令陸甲第二十号陸重機密第七十六号に依り臨時動員下令 釜山兵站部編成完結(朝鮮)
八 一 五	爾後本部を釜山に置き全鮮主要駅に支部出張所を設置し兵站業務に従事 停戦
九 二	終戦
一〇 一 六	内地帰還のため釜山港出帆
一〇 一 六	博多港上陸
一〇 一 六	復員完結

春川地区司令部

年月日	略歴
昭和二〇 二〇 四 二八	軍令により春川地区司令部編成下令 編成完結（江原道春川） 爾後江原道の警備
八 一五	停戦
九 二	終戦
一〇 一二	内地帰還のため仁川港出帆
一〇 一五	佐世保港上陸
同日	復員完結

春川地区憲兵隊

年月日	略歴
昭和二〇 三 三	軍令により春川地区憲兵隊編成下令
三 六	編成完結（春川） 京城憲兵隊隷下の春川分隊及び三陟憲兵分遣隊を改編し
八 一五	爾後江原道の治安、警備に任ず
九 二	停戦
一〇 二二	終戦
一〇 二三	内地帰還のため釜山港出帆
〃 〃	仙崎上陸
〃 〃	復員完結

		大邱地区憲兵隊	
		略	歴
昭和二〇	三	三	軍令により大邱地区憲兵隊編成下令
	三	一六	編成完結（大邱）
	八	一五	爾後慶尚北道の治安警備に任ず
	九	二	憲兵隊本部を大邱に置き分隊を安東、浦項、分駐所を金川等に置く
	一〇	二二	停戦
	一〇	二三	終戦
	同	日	内地帰還のため釜山港出帆
			仙崎港上陸
			復員完結

独立鉄道第二一大隊 (路第四三五七部隊)

年月日	略歴
昭和二〇 二〇 五 四	軍令により独立鉄道第二一大隊編成下令
五 三	編成完結(満州国海城)
五 一	海城出發
五 一	鮮満国境(安東)通過
五 一	京城郊外陵谷着
五 一	爾後陵讓線建設作業に従事
七 一	陵谷出發
同 日	京城清涼里着
八 一	感興(北鮮)→京城間の輸送業務に従事
八 一	停戦
九 二	終戦
一〇 二	内地帰還のため釜山港出帆
一〇 三	仙崎港上陸
一〇 三	復員完結

年 月 日	略 歴
昭和二〇 二 一〇	野戦重砲兵第一五連隊補充隊編成完結（朝鮮会寧） 爾后会寧附近の警備
八 一三	軍直砲兵隊として京城附近集結を命ぜられ会寧出発
八 一四	清津附近着
八 一五	羅南駅通過
八 一七	鉄原着
八 一八	京城着
九 二	終戦
一〇 二〇	内地帰還のため釜山港出帆
一〇 二一	佐世保港上陸
〃 〃	復員完結

野戦重砲兵第一五連隊補充隊（朝鮮第二〇七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一七 六 二九	朝鮮俘虜收容所編成完結（京城）
二〇 八 一五	爾後京城に本所を置き、仁川、興安に分析を設置し俘虜の收容に任ず 停戦
" 八 二五	俘虜の引渡しを完了
" " "	朝鮮軍司令部と共に大田に移駐
一一 一 三	内地帰還のため釜山港出帆
一一 一 五	博多港上陸
" " "	復員完結

朝鮮俘虜收容所 (朝鮮軍)

年 月 日	略 歴
昭和一九二二	特設陸上勤務第一〇九中隊編成下令
一一二七	編成完結（京城）
一一一八	屯営出發
一一一九	馬山着
二〇三三	馬山重砲連隊の指揮下に編入 馬山出發
三三三五	木浦着
八一五	爾後船舶輸送の任務に従事 停戦
九二二	現地召集解除

特設陸上勤務第一〇九中隊（朝軍第八八八二部隊）

釜山陸軍輸送統制部

年月日	略歴
昭和十六年四月一日	釜山陸軍輸送統制部編成（釜山） 部長 釜山要塞司令官少将 石本貞直 兼任 爾後軍需輸送の円滑を図るため統制業務に任ず
一九一九年四月四日	釜山陸軍々需輸送統制部を釜山陸軍輸送統制部と改称す
一九一九年六月六日	釜山要塞司令官少将 石川琢磨新々に部長兼任 軍需品の輸送増強のため馬山に分駐班を設置す
一九二〇年二月二日	羅津に同出張所更に清津、元山、麗水等に分駐班を設置す 戦局に対応するため羅津出張所及び清津分駐班の輸送統制業務の解任閉鎖を実施
一九二〇年四月一日	同日元山分駐班を出張所に昇格増強に努む。
一九二〇年八月五日	更に長剪、木浦に分駐班を設置す ソ軍元山上陸
一九二〇年八月十九日	停戦 元山出張所、長剪、馬山、麗水各分駐班の閉鎖、釜山本部に復帰
一九二〇年八月二十日	以後釜山兵站部に於て在鮮邦人の引揚輸送並に救済業務に従事

	昭和二〇	九	二〇	朱浦に集結武装解除
	一〇	一五		内地帰還のため釜山港出帆
	一〇	一六		博多港上陸
	一〇	一六		復員完結

		昭和二〇		年	全州陸軍病院
				月	
		六	六	日	略 歴
		六	二八		
		八	一五		全州陸軍病院編成下令
		九	二		編成完結（朝鮮全州）
		一一	三		爾後全州地区に患者療養所を開設患者の収療に任ず
		一一	四		停戦
		“	“		終戦
					内地帰還のため釜山港出帆
					博多港上陸
					復員完結

第二装甲列車隊 (路第四三七一部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一六 七 二八	第二装甲列車隊編成完結 (浜江省哈爾濱)
二〇 八 八	爾後黒河、佳木斯方面の北滿警備
八 八 八	第二装甲列車隊動員下令
八 九 九	哈爾濱出發
八 一 四	梅河口に到着 同地附近警備
八 一 六	梅河口出發
八 一 六	鮮満国境通過
八 二 〇	京城府龍山着
九 二 二	終 戦
九 二 八	内地帰還のため釜山港出帆
九 二 九	仙崎港上陸
〃 〃	復員完結
	(注)一部ハルピンに残置以後ソ連軍に抑留さる